

古文ドリル：係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」識別100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：係り結びの法則

古文の係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」は、文末の活用形を変える。これが「係り結びの法則」。

係助詞	結びの活用形	意味
ぞ	連体形	強調
なむ	連体形	強調（やや古い）
や	連体形	疑問・反語
か	連体形	疑問・反語
こそ	已然形	強調

識別の鉄則

- 文中に係助詞を見つける
- 文末の活用形を確認（連体形 or 已然形）
- 意味を判定（強調 or 疑問・反語）
- 「こそ」＋已然形が文中で切れると逆接になる場合あり
- 結びの省略に注意（「あれ」「あらめ」などの省略）
- 結びの流れ（結びが流れて連用形・終止形になる）にも注意

結びの省略

「こそ」「ぞ」の後に動詞がなくても、省略されている場合あり。例：「あけぼのこそ（～あれ）」

反語の見分け方

「や」「か」が反語になる手がかり： - 文脈で「いや、～ない」と否定の含意 - 「やは」「かは」は反語の確率が極めて高い - 文末に推量（む・らむ・べし）が来ると反語になりやすい

「なむ」の識別（4種類）

「なむ」の種類	判別
係助詞「なむ」	体言・連体形+なむ／連体形結び
終助詞「なむ」	未然形+なむ／願望「～してほしい」
完了「ぬ」未然+推量「む」	連用形+なむ
ナ変動詞未然+推量「む」	「死なむ」「往なむ」

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 文末を最初に見る（係り結びの逆引き）

係助詞問題は **文末の活用形** を先に確認する方が速い。 - 文末が **連体形** で結ばれている → 上に「ぞ・なむ・や・か」がある - 文末が **已然形** で結ばれている → 上に「こそ」がある
文末から逆算する方が、係助詞を見落とすリスクが減る。

コツ② 「やは・かは」を見たら反語確定

「や」「か」だけでは疑問か反語か迷うが、**「やは」「かは」** はほぼ反語。 - 「言ふ**やは**ある」「知る**かは**」 → 「言うだろうか、いや言わない」「知ることがあろうか、いや知らない」
「は」が付いた瞬間に反語と即断。

コツ③ 「なむ」の4種は直前で即決

「なむ」を見たら **直前の活用形** を即チェック。 - **連用形+なむ** → 完了「ぬ」未然+推量「む」（強意） - **未然形+なむ** → 終助詞「なむ」（願望「～してほしい」） - **体言・連体形+なむ** → 係助詞「なむ」（強調） - **「死／往」+なむ** → ナ変動詞未然+推量「む」
直前が連用形なら完了+推量、未然形なら願望、体言なら係助詞。

コツ④ 「こそ＋已然形＋、」は逆接の合図

「こそ」＋已然形で **句が切れて続いていく** ときは、強調ではなく **逆接** に転じる。 - 「花**こそ**散れ、葉はなほ残る」 → 「花は散ったけれど、葉はまだ残る」

「こそ～已然形＋、」のかたちは「～けれども」と訳す。

試験本番でのチェック順序

1. **文末の活用形** を見る（連体形か已然形か）
2. 文中の **係助詞** を特定（ぞ・なむ・や・か・こそ）
3. 「やは／かは」が来ていたら **反語** で確定
4. 「なむ」は **直前の活用形** で4種を見分ける

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「死な**む**」を完了「ぬ」未然＋推量と誤答（実はナ変未然＋推量）
- ・「こそ～已然形＋、」を強調と訳す（実は逆接）
- ・「や／か」を全部疑問と訳す（文脈で反語の可能性も常にチェック）
- ・結びの省略（「あれ」「あらめ」省略）に気づかない

採点表

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

係り結びの五助詞を識別する基礎。

Q1. 次の傍線部「ぞ」と結びを識別せよ。

花**ぞ**咲く。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「咲く」（強調） **解説**：「花が咲くのだ」。

Q2. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

月なむ清く照る。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「照る」（強調） 解説：「月こそ清く照る」。

Q3. 次の傍線部「や」と結びを識別せよ。

鳥や鳴く。

答え：係助詞「や」＋連体形「鳴く」（疑問） 解説：「鳥が鳴くのか」。

Q4. 次の傍線部「か」と結びを識別せよ。

君か思ふ。

答え：係助詞「か」＋連体形「思ふ」（疑問） 解説：「あなたは思うのか」。

Q5. 次の傍線部「こそ」と結びを識別せよ。

心こそ安けれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「安けれ」（強調） 解説：「心こそ安らかなのだ」。

Q6. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

春ぞ来たる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「来たる」（強調） 解説：「春が来たのだ」。

Q7. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

なほ我れこそ思ひ侍れ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「侍れ」（強調） 解説：「やはり私こそ思います」。

Q8. 次の傍線部「や」を識別せよ。

雨**や**降る。

答え：係助詞「や」＋連体形「降る」（疑問） **解説：**「雨が降るのか」。

Q9. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いかなる人**か**心安からむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（疑問） **解説：**係助詞「か」（疑問）＋形容詞「安し」未然形「安から」＋推量「む」連体形（「か」の結び）。「どんな人が心安らかであろうか」。文末の「む」が連体形になっているのは係助詞「か」の結び。

Q10. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

月**こそ**雲に隠るれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「隠るれ」（強調） **解説：**「月こそ雲に隠れるのだ」。

Q11. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

我れ**ぞ**知る。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「知る」（強調） **解説：**「私こそが知っているのだ」。

Q12. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

鳥**なむ**さへづる。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「さへづる」（強調） **解説：**「鳥がさえずる」。

Q13. 次の傍線部「や」を識別せよ。

花散る**や**いまだ。

答え：係助詞「や」（疑問） **解説：**「花が散ったか、まだか」。結びは省略。

Q14. 次の傍線部「か」を識別せよ。

誰**か**来む。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（疑問） 解説：「誰が来るのだろうか」。

Q15. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

山**こそ**深けれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「深けれ」（強調） 解説：「山こそ深いのだ」。

Q16. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

鶯**ぞ**鳴き出づる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「出づる」（強調） 解説：「鶯が鳴き始めるのだ」。

Q17. 次の傍線部「や」を識別せよ。

風**や**強き。

答え：係助詞「や」＋連体形「強き」（疑問） 解説：「風が強いのか」。

Q18. 次の傍線部「か」を識別せよ。

何**か**よからむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（疑問） 解説：「何が良いだろう」。

Q19. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

春**こそ**いとあはれなれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「あはれなれ」（強調） 解説：「春こそとても趣あるのだ」。

Q20. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月の出づるを人**ぞ**待つ。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「待つ」（強調） 解説：「月の出るのを人が待つのだ」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

反語、結びの省略・流れ、「やは・かは」の応用問題。

Q21. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

命**やは**惜しき。

答え：係助詞「やは」＋連体形「惜しき」（反語） 解説：「命など惜しいだろうか、いや惜しくない」。「やは」は反語性が強い。

Q22. 次の傍線部「かは」を識別せよ。

思ふ事**かは**忘れぬる。

答え：係助詞「かは」＋連体形「忘れぬる」（反語） 解説：「思う事を忘れただろうか、いや忘れない」。

Q23. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの逆接）。

物言はず**こそ**よからめ、人見れば言ふ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「よからめ」（逆接的） 解説：「こそ～め、」と文中で切れて逆接。「物言わないのが良いだろうが、人を見ると言う」。

Q24. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此処に**ぞ**書きける。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ける」（強調） 解説：「ここに書いたのだ」。

Q25. 次の傍線部「なむ」を識別せよ（係助詞？終助詞？）。

早く花咲かなむ。

答え：終助詞「なむ」（願望） **解説：**未然形「咲か」＋「なむ」（願望）。「早く花が咲いてほしい」。
係助詞ではない。引っ掛け。

Q26. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

男なむありける。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**「男がいたのだ」。

Q27. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

我が思ふ人は誰ぞある。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ある」（疑問風強調） **解説：**「私の思う人は誰なのだ」。

Q28. 次の傍線部「や」を識別せよ。

春の夜のやみはあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるる。

答え：「やは」反語＋連体形「かくるる」 **解説：**凡河内躬恒。「香までは隠れるだろうか、いや隠れない」。

Q29. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いづれの御時にか女御更衣あまたさぶらひ給ひける。

答え：係助詞「か」＋連体形「ける」（疑問） **解説：**源氏物語冒頭。「いつの帝の御代であったか」。

Q30. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

春ぞあけぼのなる、と古人言ふ。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「なる」（強調） **解説：**係助詞「ぞ」（強調）＋断定「なり」連体形「なる」（「ぞ」の結び）＋引用「と」＋四段「言ふ」終止形。「春はあけぼの（が最高）だ、と古人

は言う」。係助詞「ぞ」の結びは連体形。

Q31. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

雪の白きにや、はや梅**ぞ**ひらく。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ひらく」（強調） **解説：**「梅が開くのだ」。

Q32. 次の傍線部「や」を識別せよ。

月**や**あらぬ春**や**昔の春ならぬ。

答え：係助詞「や」＋連体形「あらぬ」「ならぬ」（反語） **解説：**在原業平。「月は昔の月ではないのか、いや違う」。

Q33. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

雪のいと高く降りたるを**こそ**見れ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「見れ」（強調） **解説：**「雪がとても深く降ったのを見たのだ」。

Q34. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いかがせむと**か**思ひ給ふ。

答え：係助詞「か」＋連体形「思ひ給ふ」（疑問） **解説：**「どうしようと思ひになるのか」。

Q35. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

木の間より漏り来る月の影見れば心づくしの秋**ぞ**来にける。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**百人一首・大江千里。「秋が来たのだ」。

Q36. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

鶯のなき出で**なむ**。

答え：完了「ぬ」未然＋推量「む」（係助詞ではない） **解説：**連用形「出で」＋「な」（「ぬ」未然）＋「む」。「鳴き出してしまうだろう」。引っかけ。

Q37. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

鳥**ぞ**ねぐらに帰る。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「帰る」（強調） 解説：「鳥が時に帰るのだ」。

Q38. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

花**こそ**散りけれ、若葉ぞ生ふる。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「けれ」（文中逆接） 解説：係助詞「こそ」＋四段「散る」連用形「散り」＋過去「けり」已然形「けれ」（「こそ」の結び）。「花は散ったけれど、若葉は生えるのだ」。文中の「こそ～已然形」は逆接的なニュアンスを生む。「散れ」（已然形と命令形が同形）の曖昧さを「けれ」で明確化。

Q39. 次の傍線部「や」を識別せよ。

思ふ事**や**ある。

答え：係助詞「や」＋連体形「ある」（疑問） 解説：「思う事があるのか」。

Q40. 次の傍線部「か」を識別せよ。

知らで過ぐる**か**。

答え：係助詞「か」＋連体形（疑問） 解説：「知らずに過ごすのか」。

Q41. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

あはれと**ぞ**思ふ。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「思ふ」（強調） 解説：「しみじみと思うのだ」。

Q42. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

我が宿の梅**こそ**よけれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「よけれ」（強調） 解説：「私の家の梅こそが良いのだ」。

Q43. 次の傍線部「や」を識別せよ。

知らず**や**。

答え：係助詞「や」（疑問・結びの省略） **解説：**「知らないのか」。

Q44. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いつ方へ**か**行く。

答え：係助詞「か」＋連体形「行く」（疑問） **解説：**「どちらへ行くのか」。

Q45. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

駿河なる宇津の山辺のうつつにも夢にも人にあは**なむ**。

答え：終助詞「なむ」（願望） **解説：**未然形「あは」＋「なむ」。「人と会いたい」。伊勢物語の有名な歌。係助詞でないので注意。

Q46. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

大方は月**ぞ**をかしき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「をかしき」（強調） **解説：**「だいたい月が趣あるのだ」。

Q47. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

風**こそ**寒けれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「寒けれ」（強調） **解説：**「風こそが寒いのだ」。

Q48. 次の傍線部「や」を識別せよ。

鳴く**や**鳴かぬ**や**。

答え：係助詞「や」（疑問の並列） **解説：**「鳴くのか鳴かないのか」。

Q49. 次の傍線部「か」を識別せよ。

嘆くとも嘆くとも**かは**世はかへるべき。

答え：係助詞「かは」＋連体形「べき」（反語） **解説：**「嘆いたとて世が変わるだろうか、いや変わらない」。

Q50. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

心**ぞ**乱るる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「乱るる」（強調） **解説：**「心が乱れるのだ」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

複雑な結びの省略・流れ、複数係助詞の並立、和歌中の係り結び。

Q51. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

山里は冬**ぞ**さびしさまさりける。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ける」（強調） **解説：**源宗于。「冬こそが寂しさが増すのだ」。

Q52. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

人目も草もかれぬとおもへば、人**こそ**見えね。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「ね」（逆接） **解説：**「人は見えないけれど」（逆接）。

Q53. 次の傍線部「や」を識別せよ。

嘆けとて月**やは**ものを思はする。

答え：係助詞「やは」＋連体形「思はする」（反語） **解説：**西行。「月が嘆かせるだろうか、いや違う」。

Q54. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

いかに**こそ**世のうきことを忘るれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「忘るれ」（強調） **解説：**副詞「いかに」＋係助詞「こそ」＋下二段「忘る」已然形「忘るれ」（「こそ」の結び）。「どうしてこそ世の憂きことを忘れることができるだろうか」（反語的）。「こそ～已然形」の典型的係り結び。

Q55. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

大伴の三津の浜松名にしおはば恋しき人**ぞ**寄りても見まし。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「まし」（反実仮想と強調） **解説：**「恋しい人が寄って見るだろうに」（反実）。

Q56. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

いざ、月見**なむ**。

答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」（係助詞ではない） **解説：**連用形「見」＋「な」＋「む」。「月を見てしまおう」。

Q57. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

あけぼの**こそ**をかしけれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「をかしけれ」（強調） **解説：**枕草子の本来の形。

Q58. 次の傍線部「や」を識別せよ。

もはや春も過ぎ**や**せぬらむ。

答え：係助詞「や」（疑問）／「らむ」の連体形が結び **解説：**「春も過ぎてしまったのだろうか」。

Q59. 次の傍線部「か」を識別せよ。

何**か**思ふ。

答え：係助詞「か」＋連体形「思ふ」（疑問） **解説：**「何を思うのか」。

Q60. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。

あけばの**こそ**。

答え：係助詞「こそ」（結びの省略） 解説：「(をかしけれ)」が省略されている。

Q61. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此の歌**ぞ**良ろしき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「良ろしき」（強調） 解説：「この歌が良い」。

Q62. 次の傍線部「ものを」を識別せよ。

露とこたへて消えなまし**ものを**。

答え：（参考）反実仮想「まし」 解説：係り結びではないが、文末は反実仮想。

Q63. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

夢**こそ**さめね。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「ね」（強調・打消結合） 解説：「夢こそは覚めないのだ」。

Q64. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

風**ぞ**吹く。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「吹く」（強調） 解説：「風が吹くのだ」。

Q65. 次の傍線部「か」を識別せよ。

君ならで誰に**か**見せむ梅の花。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（反語） 解説：紀友則。「ならで」＝「～でなくて」。「あなた以外の誰に見せようか、いや誰にも見せない」。

Q66. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月**ぞ**残れる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「残れる」（強調） 解説：「月が残っているのだ」。

Q67. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

雪降りて**こそ**いとあはれなれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「あはれなれ」（強調） 解説：「雪が降ってこそ風情がある」。

Q68. 次の傍線部「や」を識別せよ。

我れと汝**やは**異なる。

答え：係助詞「やは」＋連体形「異なる」（反語） 解説：「私とあなたとが違うだろうか、いや違わない」。

Q69. 次の傍線部「か」を識別せよ。

何**かは**思ふらむ。

答え：係助詞「かは」＋連体形「らむ」（反語） 解説：「何を思うだろうか、いや何も思わない」。

Q70. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

よみ人しら**ずぞ**。

答え：係助詞「ぞ」（結びの省略） 解説：「(ある)」が省略。「詠み人知らずなのである」。

Q71. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

春**こそ**来たれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「来たれ」（強調） 解説：「春が来たのだ」。

Q72. 次の傍線部「や」を識別せよ。

我れにいまだ知る人**や**ある。

答え：係助詞「や」＋連体形「ある」（疑問） **解説：**「私を知る人はあるか」。

Q73. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

雪の朝に犬**ぞ**走る。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「走る」（強調） **解説：**「犬が走るのだ」。

Q74. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

いまは**こそ**さらに思はね。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「思はね」（強調） **解説：**「今こそはもう思わない」。

Q75. 次の傍線部「か」を識別せよ。

いかなる人**か**かかる目を見るらむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「らむ」（疑問） **解説：**「どんな人がこんな目を見るのだろうか」。

Q76. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

此のごとくに**ぞ**過ぎぬる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「ぬる」（強調） **解説：**「このように過ぎたのだ」。

Q77. 次の傍線部「や」を識別せよ。

いかにせまし**や**。

答え：係助詞「や」（疑問・結びの省略） **解説：**「どうしただろうか」。

Q78. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

暮れぬめり**こそ**急がめ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「急がめ」（強調・推量） 解説：「暮れたようだ、急ごう」。

Q79. 次の傍線部「か」を識別せよ。

誰かは来む。

答え：係助詞「かは」＋連体形「む」（反語） 解説：「誰が来るだろうか、いや来ない」。

Q80. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

月の出を待つ夜ぞ長き。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「長き」（強調） 解説：「月の出を待つ夜が長いのだ」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

難関大頻出の引っ掛け・結びの省略・流れ・複合係り結び。

Q81. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花、いとぞをかしき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「をかしき」（強調） 解説：「とても風情がある」。

Q82. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの流れ）。

我れこそ思ひ侍るに、人は知らず。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「侍る」（逆接） 解説：「私は思っているのに、人は知らない」。「こそ～已然形、」で逆接。

Q83. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

道知れる人なむありける。

答え：係助詞「なむ」＋連体形「ける」（強調） 解説：伊勢物語。「道を知る人がいたのだ」。

Q84. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

早く帰りなむ。

答え：完了「ぬ」未然＋意志「む」 解説：連用形「帰り」＋「な」＋「む」。「早く帰ってしまおう」。係助詞ではない。

Q85. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

散らなむ。

答え：終助詞「なむ」（願望） 解説：未然形「散ら」＋「なむ」。「散ってほしい」。

Q86. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いとあはれとぞおぼゆる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「おぼゆる」（強調） 解説：「とてもしみじみと思われる」。

Q87. 次の傍線部「や」を識別せよ。

月の出るを思ひ知らでやありけむ。

答え：係助詞「や」＋連体形「けむ」（疑問） 解説：「思い知らずにいたのだろうか」。

Q88. 次の傍線部「か」を識別せよ。

知る人か世にあらむ。

答え：係助詞「か」＋連体形「む」（反語） 解説：「知る人がいるだろうか、いやいない」。

Q89. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

ものいはぬ世こそさびしけれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「さびしけれ」（強調） 解説：「物言わぬ世こそ寂しい」。

Q90. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

涙**ぞ**こぼるる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「こぼるる」（強調） 解説：「涙がこぼれるのだ」。

Q91. 次の傍線部「やは」を識別せよ。

命**やは**惜しき。

答え：係助詞「やは」＋連体形「惜しき」（反語） 解説：「命が惜しいだろうか、いや惜しくない」。

Q92. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いかなる御代に**ぞ**侍りし。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「し」（疑問の強調） 解説：「どんな御代であったのか」。

Q93. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

人**こそ**つらけれ、世はうらめしからず。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「つらけれ」（逆接） 解説：「人こそ薄情だけれども、世は恨めしくない」。

Q94. 次の傍線部「か」を識別せよ。

知らぬものは何**か**。

答え：係助詞「か」（疑問・結びの省略） 解説：「知らぬものは何（であるか）」。

Q95. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

あはれにも**ぞ**思ひ知らるる。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「るる」（強調） 解説：「しみじみと思い知られる」。

Q96. 次の傍線部「や」を識別せよ。

此の世にあるもの皆夢**や**。

答え：係助詞「や」（疑問・結びの省略） **解説：**「この世のものは皆夢か」。

Q97. 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。

山里は冬**こそ**。

答え：係助詞「こそ」（結びの省略） **解説：**「(さびしけれ)」が省略。

Q98. 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。

いづくも同じ秋の夕暮**ぞ**寂しき。

答え：係助詞「ぞ」＋連体形「寂しき」（強調） **解説：**新古今集の三夕の歌などに通じる表現。係助詞「ぞ」＋形容詞「寂し」連体形「寂しき」（結び）。「どこも同じ秋の夕暮れは寂しいことよ」。

Q99. 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

我れもまた行か**なむ**。

答え：終助詞「なむ」（願望、他者への願い） **解説：**未然形「行か」＋「なむ」。「行ってほしい」（他者）。係助詞でない。

Q100. 次の傍線部「こそ」を識別せよ。

あれ**こそ**世に類なき名歌なれ。

答え：係助詞「こそ」＋已然形「名歌なれ」（強調） **解説：**「あれこそ世に類のない名歌だ」。

入試レベル / 20

採点振り返り

セクション	配点	得点
基礎 (Q1～Q20)	20	
標準 (Q21～Q50)	30	
応用 (Q51～Q80)	30	
入試 (Q81～Q100)	20	
合計	100	

- 80点以上：完璧。「なむ」の4種識別もできる
- 60～79点：標準合格レベル
- 40～59点：基礎は固まっている。反語・結びの省略を反復
- 39点以下：5助詞と結びの活用形から再スタート

あとがき

係助詞「ぞ・なむ・や・か・こそ」の核心： - **ぞ・なむ** → 連体形結び（強調） - **や・か** → 連体形結び（疑問・反語） - **こそ** → 已然形結び（強調） - 「**やは**」「**かは**」はほぼ反語 - 「**こそ～已然形、**」で文中の逆接 - 「**なむ**」の4種識別：係助詞／終助詞（願望）／完了「ぬ」＋推量「む」／ナ変＋推量「む」

入試最頻出。完全暗記必須。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太